

# 小児NPの活動に対する看護師・ スタッフの満足度とNPへの期待

The degree of satisfaction of nurses and staff toward the activities of  
pediatric nurse practitioner (PNP) and their expectations of PNP

高野 政子<sup>1)</sup>・橋本 志乃<sup>2)</sup>

1) 大分県立看護科学大学 小児看護学研究室, 2) 東京大学医学部附属病院 看護部

## 要 旨

### 【目的】

小児NPの活動に対する看護師とスタッフの満足度とNPに対する期待を明らかにする。

### 【方法】

調査は平成27年8月～9月に実施した。対象者は重症心身障がい児（者）施設の看護師と介護福祉士等のスタッフとした。質問項目は属性、小児NPの活動に対する満足度など計24項目で、回答は5段階リッカート法で求め得点化した。分析はSPSS ver.25を用いて記述統計とMann-Whitney U検定を行った（有意水準5%未満）。

### 【結果】

分析は看護師30部、スタッフは13部を対象とした。看護師全体では「NPに判断や処置等の質問がしやすい」「NPは困った場面で早急に対応してくれる」「NPは知識や技術が優れている」「NPは看護師やスタッフによく指導している」等4項目で満足度が高かった。看護師経験年数20年以上群は、「NPは1年目・2年目の研修医と比較して同様のスキルがある」「NPは困った場面で早急に対応してくれる」「NPと一緒に働きやすい」の3項目で20年未満群より高い満足度であった（ $p < 0.05$ ）。スタッフは、「NPの患者に対するケアに満足している」「NPの患者に対する態度に満足している」「NPと医師の連携がとれていると思う」等の4項目が高かった。

### 【結論】

看護師・スタッフは、NPの実施する看護や医療的介入などの活動に満足し、NPを相談相手として信頼していることが示唆され、NPの「活動の拡大」「特定行為の実施」「医療の質の向上に関する活動」などを期待していた。

Key Words：小児NPの活動，看護師，スタッフ，満足度，期待

## I. 緒言

平成26年6月に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立した。これに基づき、保健師助産師看護師法が一部改正され、平成27年10月に、医師や歯科医師の判断を待たずに、手順書により診療の補助を行う看護師

を養成する「特定行為に係る看護師の研修制度」が施行された。この制度に先立ち、大学院修士課程の診療看護師（Nurse Practitioner：NP）の養成教育は、平成20年4月に開講された。この特定行為研修を受けた診療看護師（NP）の内1人は、制度の試行事業として、小児NP領域で重症心身障がい児（者）施設で活動している。

日本での重症心身障がい児（者）数は、脳性麻痺、脳

炎・脳症、難治性てんかん等で重い障害が残った児を主に、新生児段階から成人に達した人も含め、人口比は0.03%とみて良い。この算定で全国には38,400人で、このうち、施設入所児（者）は13,880人であり、24,520人が在宅と推定される<sup>1-2)</sup>。在宅療養児（者）が増加している背景には、平成16年に小児慢性特定疾患対策が法制化され、医療的ケアの必要な子どもを対象とした事業やサービスが導入されたことがある。杉本らの全国調査では、在宅療養児（者）の医療的ケアの内容は人工呼吸器が31%、気管切開が54%、経管栄養が94%であり、在宅で生活する障がい児（者）は重症化傾向にあると報告している<sup>3)</sup>。そして、この在宅療養児（者）の重症化に対応するため、重症心身障がい児施設では、在宅重症児の診療援助や短期入所、訪問看護などの活動を行っている。さらに、平成24年に児童福祉法が一部改正され、医療型障がい児（者）入所施設として、在宅重症児者のバックアップ機能も備えた療育の場として重要な役割を担うようになった。重症心身障がい児（者）施設では、医療職の他に保育士や介護福祉士などの福祉職が協働しているため、重症児者のケアに求められる変化に対応できる専門性のある職員の育成と確保が重要である<sup>4)</sup>。今回、重症心身障がい児（者）施設において活動する1名の小児NPに焦点を当てて調査した。

本研究の目的は、重症心身障がい児（者）施設において活動する1名の小児NPに対する看護師とスタッフの満足度と小児NPへの期待を明らかにすることである。

#### 用語の定義

本研究の「小児NP」とは、大学院NP養成課程を修了し、厚生労働省の指定研修機関で特定行為に係る研修を受けた看護師で、特に小児領域で活動する診療看護師のこととした。

## II. 研究方法

### 2.1 調査期間及び対象者

調査は、平成27年8月26日～9月25日に実施した。対象者は、重症心身障がい児（者）施設一施設に勤務している看護師とスタッフ（保育士、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、計69名とした。

### 2.2 調査手順

調査は、先行文献<sup>5)</sup>を参考にして独自に作成した無記名の自記式質問紙を用いた。対象施設の管理者と小児NPに、研究目的と方法を口頭と文書で説明し内諾を得た。看護管理者に対象者への質問紙の配布を依頼した。対象者には依頼文書で、各自で郵送法による返信を依頼した。回答の返信により研究への協力を承諾したとみなすことを依頼文書で説明した。

### 2.3 調査項目

質問内容は、看護師に対して属性4項目（年齢、性別、経験年数、NPとの活動頻度）、小児NPの活動に対しての満足度について17項目、小児NPの活動に対しての自由記述3項目、合計24項目とした。また、スタッフに対しては、属性3項目（年齢、性別、NPとの活動頻度）、NPの活動に対しての満足度について17項目、小児NPの活動に対しての自由記述3項目、合計23項目とした。満足度に関する質問項目は、看護師・スタッフ共に同じである。「強く思う、5点」「少し思う、4点」「どちらでもない、3点」「あまり思わない、2点」「まったく思わない、1点」の5段階リッカート法で回答を求めて得点化した。得点が高いほど満足度が高いと考えた。

### 2.4 分析方法

対象者の属性と質問項目は記述統計を行い、看護師・スタッフは属性を2群に分けてMann-Whitney U検定を行った。分析には統計ソフトSPSS ver.25.0を用い、有意水準5%未満（ $P < 0.05$ ）とした。自由記述については、記載内容の文節ごとに類似性に焦点を当てカテゴリ分類して検討した。

### 2.5 倫理的配慮

本研究への協力は、対象者の自由意思と任意性に基づいて行われることを文書で説明した。調査の協力者や地域を特定できるような情報は一切記録として残さず、プライバシーを遵守すること、回収した調査用紙は鍵のかかる場所に保管し、論文作成後は速やかにデータを破棄すること、調査結果は、学会等で公表する予定だが、研究以外の目的には使用しないことを文書で説明した。本研究は、所属大学の研究倫理安全委員会の承認を得て実

施した（承認番号：1026）。

### Ⅲ. 結果

#### 3.1 対象者の属性

看護師への質問紙は43部を配布し、有効回答は30部（有効回答率69.8%）であった。対象者の看護師の属性は、表1に示した。看護師の平均年齢は46.1±7.3歳であった。その内34～46歳が16名（53.3%）で、47歳以上は14名（46.7%）であった。性別は女性23名（76.7%）、男性7名（23.3%）であった。看護師経験年数の平均は19.7±10.6年で、20年未満は13名（43.3%）、20年以上は16名（53.3%）であった。NP

との活動頻度は、「一緒に働いている」が4名（13.3%）、「以前一緒に働いたことがある」が12名（40.0%）、「短期間一緒に働いたことがある」は12名（40.0%）であった。

また、スタッフの属性は、表2に示した。質問紙は26部配布し、13部を回収した（回収率50.0%）。スタッフの平均年齢は41.0±13.2歳であった。22～41歳は7名（53.8%）、42歳以上は6名（46.2%）であった。スタッフは女性9名（69.2%）、男性4名（30.8%）であった。NPとの活動頻度は、「一緒に働いている」が5名（38.5%）、「以前一緒に働いたことがある」は4名（30.8%）、「短期間一緒に働いたことがある」は2名（15.4%）であった。

表1 看護師の属性

		(n=30)	
		n	%
年齢	34－46歳	16	53.3
	47歳以上	14	46.7
性別	男	7	23.3
	女	23	76.7
経験年数 (看護師)	20年未満	13	43.3
	20年以上	16	53.3
	不明	1	3.3
NPとの 活動頻度	一緒に働いている	4	13.3
	以前一緒に働いたことがある	12	40.0
	一緒に働いたのは短期間である	12	40.0
	ほとんど働いたことはない	2	6.7
	一緒に働いたことはない	0	0.0

表2 スタッフの属性

		(n=13)	
		n	%
年齢	22－41歳	7	53.8
	42歳以上	6	46.2
性別	男	4	30.8
	女	9	69.2
NPとの 活動頻度	一緒に働いている	5	38.5
	以前一緒に働いたことがある	4	30.8
	一緒に働いたのは短期間である	2	15.4
	ほとんど働いたことはない	0	0.0
	一緒に働いたことはない	1	7.7
	不明	1	7.7

### 3.2 NPの活動に対する看護師の満足度

看護師によるNPの活動に対する質問17項目を、満足度が高い順に並べ替えて、表3に記した。同僚の看護師が、各項目に対して「強く思う」と「少し思う」の合計が80%以上の項目は、「NPに判断や処置等の質問がしやすい(86.7%)」「NPは困った場面で早急に対応してくれる(86.6%)」「NPは知識や技術が優れている(83.4%)」「NPは看護師やスタッフによく指導している(80.0%)」「NPは患者へのケア・ケアの責任をもっている(80.0%)」であった。一方、「NPの導入により看護ケアの質が向上した(53.3%)」や、「NPが導入され、看護師の学習意欲が増した(33.3%)」などは、割合が低かった。

### 3.3 NPの活動に対するスタッフの満足度

スタッフによるNPの活動に対して満足度が高い順に並べ替えて、表4に示した。スタッフが「強く思う」と「少し思う」を合計した項目は、「NPの患者に対するケアに満足している」「NPの患者に対する態度に満足している」が100%であった。その他、80%以上の項目は、「NPと医師の連携がとれていると思う(92.3%)」「NPの役割に総合的に満足している(92.3%)」「NPは困

った場面で早急に対応してくれる(84.7%)」「NPに判断や処置等の質問がしやすい(84.6%)」「NPは患者へのケア・ケアの責任をもっている(84.6%)」「NPは知識や技術が優れている(84.6%)」「看護師とNPの間での協力や情報伝達に満足している(84.6%)」であった。一方、「NPが導入され、あなたの学習意欲が増した(46.2%)」は低かった。

### 3.5 看護師・スタッフの属性と満足度の関連

看護師の属性(年齢, 性別, 経験年数, NPとの活動頻度)と満足度の関連を見るために、Mann-Whitney U検定を行った。その結果を表5に示した。年齢, 性別, NPとの活動頻度では有意差を認めなかったが、看護師経験年数が20年以上群と20年未満群の2群間の比較では、「NPは1年目・2年目の研修医と比較して同様のスキルがある」「NPは困った場面で早急に対応してくれる」「NPと一緒に働きやすい」の項目で、看護師経験20年以上群が20年未満群より満足度が高かった( $p < 0.05$ )。同様に、スタッフの属性(年齢, 性別, NPとの活動頻度)でも検定したが、有意差は認めなかった。

表3 NPの活動に対する看護師の満足度(満足度が高い順)

(n=30)

項目	強く思う	少し思う	どちらでもない	あまり 思わない	全く 思わない	無回答
NPに判断や処置等の質問がしやすい	17 (56.7)	9 (30.0)	3 (10.0)	1 (3.3)	0	
NPは困った場面で早急に対応してくれる	10 (33.3)	16 (53.3)	2 (6.7)	2 (6.7)	0	
NPは知識や技術が優れている	14 (46.7)	11 (36.7)	2 (6.7)	2 (6.7)	1 (3.3)	
NPは看護スタッフによく指導している	11 (36.7)	13 (43.3)	3 (10.0)	2 (6.7)	1 (3.3)	
NPは患者へのケア・ケアの責任をもっている	8 (26.7)	16 (53.3)	4 (13.3)	1 (3.3)	1 (3.3)	
NPは看護師の意見を尊重している	10 (33.3)	13 (43.3)	3 (10.0)	2 (6.7)	2 (6.7)	
NPの説明は分かりやすい	13 (43.3)	9 (30.0)	3 (10.0)	4 (13.3)	1 (3.3)	
NPと医師の連携がとれていると思う	4 (13.3)	18 (60.0)	7 (23.3)	1 (3.3)	0	
NPと一緒に働きやすい	10 (33.3)	11 (36.7)	5 (16.7)	2 (6.7)	2 (6.7)	
NPの役割に総合的に満足している	13 (43.3)	8 (26.7)	6 (20.0)	2 (6.7)	1 (3.3)	
NPがいて患者のニーズにタイムリーな対応ができる	11 (36.7)	9 (30.0)	7 (23.3)	1 (3.3)	2 (6.7)	
看護師とNPの間での協力や情報伝達に満足している	9 (30.0)	11 (36.7)	5 (16.7)	3 (10.0)	2 (6.7)	
NPの患者に対する態度に満足している	9 (30.0)	11 (36.7)	5 (16.7)	4 (13.3)	1 (3.3)	
NPの患者に対するケアに満足している	10 (33.3)	9 (30.0)	6 (20.0)	3 (10.0)	2 (6.7)	
NPの導入により看護ケアの質が向上した	4 (13.3)	12 (40.0)	10 (33.3)	2 (6.7)	2 (6.7)	
NPは1年目・2年目の研修医と比較して同様のスキルがある	6 (20.0)	7 (23.3)	12 (40.0)	3 (10.0)	1 (3.3)	1 (3.3)
NPが導入され、看護師(あなた含)の学習意欲が増した	4 (13.3)	6 (20.0)	14 (46.7)	4 (13.3)	2 (6.7)	

人数 (%)



表4 NPの活動に対するスタッフの満足度（満足度が高い順）

(n=13)

項目	強く思う	少し思う	どちらでもない	あまり 思わない	無回答
NPの患者に対する態度に満足している	5 (38.5)	8 (61.5)	0	0	
NPの患者に対するケアに満足している	2 (15.4)	11 (84.6)	0	0	
NPと医師の連携がとれていると思う	2 (15.4)	10 (76.9)	0	0	1 (7.7)
NPの役割に総合的に満足している	3 (23.1)	9 (69.2)	1 (7.7)	0	
NPは困った場面で早急に対応してくれる	5 (38.5)	6 (46.2)	1 (7.7)	0	1 (7.7)
NPは患者へのケア・ケアの責任をもっている	3 (23.1)	8 (61.5)	2 (15.4)	0	
NPは知識や技術が優れている	3 (23.1)	8 (61.5)	2 (15.4)	0	
NPに判断や処置等の質問がしやすい	4 (30.8)	7 (53.8)	1 (7.7)	1 (7.7)	
看護師とNPの間での協力や情報伝達に満足している	0	11 (84.6)	2 (15.4)	0	
NPは看護師の意見を尊重している	4 (30.8)	6 (46.2)	2 (15.4)	0	1 (7.7)
NPの説明は分かりやすい	4 (30.8)	6 (46.2)	2 (15.4)	1 (7.7)	
NPがいて患者のニーズにタイムリーな対応ができる	1 (7.7)	8 (61.5)	3 (23.1)	0	1 (7.7)
NPの導入により看護ケアの質が向上した	1 (7.7)	8 (61.5)	3 (23.1)	1 (7.7)	
NPは看護スタッフによく指導している	2 (15.4)	7 (53.8)	3 (23.1)	0	1 (7.7)
NPと一緒に働きやすい	5 (38.5)	4 (30.8)	4 (30.8)	0	
NPが導入され、看護師（あなた含）の学習意欲が増した	2 (15.4)	4 (30.8)	6 (46.2)	1 (7.7)	
NPは1年目・2年目の研修医と比較して同様のスキルがある	1 (7.7)	3 (23.1)	7 (53.8)	0	2 (15.4)

数値は人数 (%)

表5 NPに対する看護師の経験年数別満足度

(n=29)

項目	20年未満 (n=13)	20年以上 (n=16)	p値	検定
1. 看護師とNPの間での協力や情報伝達に満足している	3.6 ± 1.0	4.3 ± 0.5	0.056	†
2. NPの患者に対するケアに満足している	3.3 ± 1.5	4.3 ± 0.5	0.068	†
3. NPの患者に対する態度に満足している	3.6 ± 1.5	4.0 ± 1.0	0.249	
4. NPは、知識や技術が優れている	4.6 ± 1.5	4.3 ± 0.5	0.812	
5. NPは、1年目・2年目の研修医と比較して同様のスキルがある	2.9 ± 1.0	3.9 ± 1.0	0.025	*
6. NPは、困った場面で早急に対応してくれる	3.9 ± 0.5	4.3 ± 0.5	0.036	*
7. NPの役割に総合的に満足している	3.4 ± 1.5	4.2 ± 0.5	0.351	
8. NPは患者へのケア・ケアの責任をもっている	3.9 ± 1.0	4.2 ± 0.5	0.329	
9. NPは看護師やスタッフの意見を尊重している	3.8 ± 1.0	4.3 ± 0.5	0.121	
10. NPは看護師やスタッフによく指導している	3.8 ± 1.0	4.3 ± 0.5	0.101	
11. NPがいて、患者のニーズにタイムリーな対応ができる	3.8 ± 1.5	4.1 ± 0.5	0.351	
12. NPの説明は分かりやすい	4.0 ± 1.5	4.2 ± 0.5	0.503	
13. NPと医師の連携がとれていると思う	3.7 ± 0.5	4.0 ± 0.0	0.156	
14. NPには判断や処置等の質問がしやすい	4.6 ± 1.0	4.7 ± 0.5	0.503	
15. NPの導入により看護ケアの質が向上した	3.1 ± 1.0	3.7 ± 0.5	0.17	
16. NPが導入され、看護師（あなた含）の学習意欲が増した	2.9 ± 1.0	3.2 ± 0.5	0.249	
17. NPと一緒に働きやすい	3.1 ± 1.5	4.2 ± 0.6	0.05	*

質問紙No.順 数値は中央値±4分位範囲 Mann-WhitneyU検定 (\* p<0.05 † P<0.1)

### 3.6 小児NPの活動で評価された内容（表6）

本調査では、NPの活動で良いと評価する具体的な内容を自由記述で求めた。その結果、28件の記述が得られた。その内容を意味ごとに分けて10のサブカテゴリー

を抽出し、さらに類似性で整理し抽象化して5つのカテゴリーを生成した。カテゴリーは【医療の質の向上に関する活動】【特定行為の実施】【新規事業開拓に係る活動】【良好な対人関係】【医師との連携】である。以下、

表6 良いと評価されたNPの活動

(N=28件)

【カテゴリー】	《サブカテゴリー》	「コード」
医療の質の向上に関する活動	講習会の実施 (11)	看) 講習会を実施することにより質が向上する。(4)
		看) BLS講習の中心的存在として、様々な職種に対してわかりやすく教えてくれ、勉強になる。(2)
		看) 講義では、看護師より深いところまで詳しく教えてくれる。(1)
		ス) 全体に浸透できると利用者の救命率が上がる。また、看護師以外の職種の職員の技術向上になっている。(1)
		ス) 心肺蘇生等の講習は実践でも役に立つ。(3)
	患者ケア (1)	ス) NPとしての気づきがある。(1)
	気管カニューレの交換 (3)	看) 患者の状態に迅速に対応している。(3)
特定行為の実施	胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換 (2)	看) 医師を呼ばずに、緊張せず行うことができる。(2)
	NPPV (非侵襲的陽圧換気療法) モード設定条件の変更 (1)	看) 患者のNPPVモード設定条件と患者の状態について看護師の声を聴きともに考えてくれたり、考え方を指導してくれた。(1)
	脱水の程度の判断と輸液による補正 (1)	看) 患者の状態に迅速に対応している。(1)
	臨時薬剤の投与 (1)	ス) 皮膚疾患に伴う継続的観察及び適剤投与の指示に関して、常勤医師が多忙により常時観察できないことがあり、処置および指示が遅れがちであるので大変助かっている。(1)
新規事業開拓に係る活動	訪問看護 (3)	看) 中心的存在として専門的な活動をしてきているため、助かる。(1)
		看) 施設の方向性 (地域連携) の方針として、訪問看護が軌道に乗るように頑張ってくれている。(2)
良好な対人関係	親身な対応 (3)	看) 医師よりも話しやすく聞きやすく頼ってしまうが、困った場面ですぐに対応してくれる。(1)
		看) 利用者みんなに対して平等に接してくれ、問題が起きた時は、一緒になって解決に向けて勉強をし、行動を共にしてくれる。(1)
		看) スタッフがなかなか話を聞く時間がない時、利用者の話を親身になって聞いて、それをほかのスタッフに伝達してくれ助かる。(1)
医師との連携	医師との連携を図る (2)	看) 医師より距離が近く、意見やアドバイスの的確であり、医師への意見や要望をうまく伝達してくれる (1)
		看) 処方切れに後で気づいた時に医師に連絡し、間に合うように対応してくれる。(1)

コードの「看」は看護師、「ス」はスタッフの意見であることを示す

カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを《 》、記述内容を「 」で表す。最も多い記述は【医療の質の向上に関する活動】12件で、《講習会の実施》《患者ケア》に分類された。記述内容は、「BLS講習の中心的存在として、様々な職種に対してわかりやすく教えてくれ、勉強になる」「看護師以外の職種の職員の技術向上になっている」「現場に合った内容を選んでいただき、スキルアップできる」「細やかな指導があり、質問にも丁寧に答えてくれる」「NPとしての気づきがある」などであった。【特定行為の実施】8件は、《NPPV (非侵襲的陽圧換気療法) モード設定条件の変更》《気管カニューレの交換》《脱水の程度の判断と輸液による補正》《臨時薬剤の投与》《胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換》であった。記述内容には「患者の状態について看護師の声を拾い、ともに考えてくれ、考え方を指導してくれた」「患者の状態に迅速に対応している」「常勤医師が多忙で

ある場合、処置および指示が遅れがちであるので大変助かっている」などであった。その他に【新規事業開拓に係る活動】は、「施設の今後の方向性 (地域連携) の方針と合致しており、地域に目を向けた取り組みを行っている」「中心的存在として専門的な活動をしてきているため、助かる」など《訪問看護》3件に関することであった。【良好な対人関係】は、「利用者みんなに対して平等に接してくれる」「頼ってしまうが、困った場面ですぐに対応してくれる」など、《親身な対応》3件が記されていた。【医師との連携】は、「医師より距離が近く意見やアドバイスの的確であり、医師への意見や要望をうまく伝達してくれている」など《医師との連携を図る》2件の活動であった。

### 3.7 小児NPの活動に期待すること

対象者には、NPの活動で期待することを自由記述で

求めた。その結果、18件の記述が得られた。記述内容を類似性で整理した。最も多い記述は、訪問看護の実践、病棟での活動の継続、施設外への付き添いなど【活動の拡大】が7件であった。その他に、薬剤の処方、人工呼吸器の管理、傷・皮膚病変の処置、など【特定行為の実施】6件と、講習会の実施など【医療の質の向上に関する活動】5件などが期待されていることが明らかになった。一方で、NPという新しい看護職の活動の役割や位置づけが不明という記述もあった。

#### IV. 考察

##### 4.1 看護師・スタッフの満足度からみるNPの効果

前原らは、看護師が行う医行為の範囲に関する全国調査を行っている。その結果、管理職の医師と看護師は、両者とも看護師の業務拡大に前向き、積極的であるということを示した。そして、良質なチーム医療は、医療の質、安全性、透明性、効率性の上昇と各分業職種の負担軽減と満足度を生み出し、全ての医療職種の労働環境を改善させる効果があると報告している<sup>6)</sup>。この報告書からも、特に高度実践看護師として医療処置を行うNPは、全ての疾患が対象となるため、2年間の大学院修士課程教育が要件であると考えられる。

日本NP教育大学院協議会では、NPに必要とされる能力として、包括的健康アセスメント能力、医療処置管理の実践能力、熟練した看護の実践能力、看護管理能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉の活用・開発能力、倫理的意思決定能力の7つの能力を提唱している<sup>7)</sup>。

そこで、本研究では、NPに必要な7つの能力の視点で、看護師とスタッフの満足度の調査結果を考察する。まず、「NPは知識や技術が優れている」「NPは患者へのケア・ケアの責任をもっている」「NPの説明は分かりやすい」の項目で満足度割合が高かったことから、包括的健康アセスメント能力、医療処置管理の実践能力、熟練した看護の実践能力が評価されていると考えられる。また、同僚の看護師は、これらの能力を必要とする【特定行為の実施】についても良いと評価し、今後も期待していた。患者の最も身近で状態・症状を詳細かつ総合的に観察しながらケアを提供している看護職が、NPとして医療的な介入をタイムリーに提供できるようにな

ることにより、患者のQOLを高め、症状の悪化を抑え、早期の回復などを得ることができる<sup>8)</sup>という役割期待があるが、本調査では、患者だけでなく、看護師・スタッフの不安や負担の軽減にもつながっていると考えられた。また、看護師の経験年数20年以上群が「NPは1年目・2年目の研修医と比較して同様のスキルがある」、「NPは困った場面で早急に対応してくれる」、「NPと一緒に働きやすい」という項目で高い満足度が得られたことは、経験が豊富な看護師からみても、NPの活動からその知識、技術や態度などを認められていると考える。

チームワーク・協働能力、倫理的意思決定能力について、満足度調査の「NPに判断や処置等の質問がしやすい」「NPは困った場面で早急に対応してくれる」「NPと医師の連携がとれていると思う」などの項目の満足度が高いことから、看護師・スタッフはNPに相談することが良いと感じていると考える。自由記述でも、NPの良い活動として、【良好な対人関係】【医師との連携】が記述されていたように、看護師・スタッフは、相談相手やチームメンバーとして、NPを信頼していることや、NPが多職種連携のキーパーソンとして位置づけられていることが推察された。

看護管理能力については、「NPは看護師やスタッフによく指導している」「NPは看護師やスタッフの意見を尊重している」の項目の満足度割合が高く、また自由記述でも、良いと評価する活動に【医療の質の向上に関する活動】が記述されていた。施設利用者の高齢化や重症化に伴って医療必要度が増しているため、看護師だけでなく福祉職が実施する救急時の対応など、職員の実践力の向上が必要である<sup>9)</sup>。看護師・スタッフは、自分自身の意見を肯定されることで自信を持ち、講習会などへの関心を持っていることが推察された。

医療保健福祉の活用・開発能力については、自由記述で良いと評価する活動に【新規事業の開拓に係る活動】や、今後はさらに【活動の拡大】を期待する記述もあった。NPには、在宅医療の場で診察ができ病態が考えられること、訪問看護もできることが望まれている<sup>10)</sup>と言われているように、近年、小児在宅療養児(者)の増加および重症化に伴い、その療育環境は複雑化している。このような対象者の重症化や複雑化に対応できる人材として、NPの活動は施設内だけでなく、訪問看護な



どの地域と連携する活動が期待されていると考える。

#### 4.2 重症心身障がい児（者）施設におけるNPの今後の課題

施設では医師・看護師のほか、介護士、作業療法士など、多職種が協働している。NPがチームにいてスタッフになんらかの影響を及ぼし、各職種が最大限の力を発揮することが期待されている<sup>11)</sup>。NPがチーム医療の中で、各職種の役割を共に考えることが重要で、実践の改善を促進し、多職種連携を円滑にすることに繋がると考える。しかし、本調査で「NPが導入され、学習意欲が増した」という項目では賛同する割合が低く影響していなかった。NPは看護師の目指すキャリアの1つになっていくことが期待されている<sup>12)</sup>ので、NPが施設全体の看護ケアの質を向上させるための活動を探究する必要がある。自由記述には、NPという新しい看護職の活動の役割や位置づけが不明という意見もあったことから、NPの活動や制度を周囲の看護師・スタッフに理解してもらう活動が課題と考える。

### V. 結論

今回、小児NPの活動に対する看護師・スタッフの満足度とその期待を明らかにするために調査を実施した。その結果、看護師・スタッフは「NPは知識や技術が優れている」「NPは患者へのケア・ケアの責任をもって」「NPの説明は分かりやすい」「NPに判断や処置等の質問がしやすい」「NPは困った場面で早急に対応してくれる」「NPは看護師やスタッフの意見を尊重している」「NPと医師の連携がとれていると思う」などで満足度が高く、NPを相談相手として信頼していることが示唆された。また、NPには「医療の質の向上に関する活動」や、「特定行為の実施」を期待していた。NPは重度心身障害児施設において看護の質を向上させるための活動を探究することや、NPが認知され、NPに対する理解が進むような活動を行うことが課題である。

### VI. 研究の限界と課題

本研究では、対象が少なく対象の地域も限定されているため、一般化には限界がある。また、今後は対象者を

拡大して検討していく必要がある。

### 謝辞

本研究にご理解とご協力をいただきました看護師とスタッフに深謝申し上げます。本研究の一部は、日本NP学会第3回学術集会にて発表しました。

本研究の遂行において利益相反は存在しません。

### 引用文献

- 1) 東京都福祉保健局障害者施策推進部居住支援課：訪問看護師のための重症心身障害児在宅療育支援マニュアル。P25-27, 2011.
- 2) 北住映二：日本小児科連絡協議会重症心身障害児（者）委員会報告書—ニーズの基礎的データ，2，2014.
- 3) 杉本健郎，河原直人，田中英高，他：超重症心身障害児の医療的ケアの現状と問題点—全国8府県のアンケート調査—。日本小児科学会雑誌，12(1)：94-101, 2008.
- 4) 西藤武美：重症心身障害児（者）看護の専門性。日本重症心身障害児学会誌，35（1）：77-83, 2010.
- 5) McMullen Ma, Alexander M.K, Bourgeois A, Goodman L, et al: Evaluating a nurse practitioner service. Dimensions of Critical Care Nursing, 20（5）：30-4, 2001.
- 6) 前原正明，川越正平，小松浩子，他：平成22年度厚生労働科学特別研究事業。看護師が行う医行為の範囲に関する研究。平成23年度報告書，215-217, 2011.
- 7) 高野政子：「特定行為に係る看護師の研修制度」を小児領域でどう活かすか—大学院における小児NP養成を開始した経緯と教育カリキュラムの開発—。小児看護，39（4）：469-475, 2016.
- 8) 草間朋子：ナースプラクティショナー（NP）に望まれる役割。HEART nursing, 24（1）：86-89, 2011.
- 9) 後藤愛：特定看護師としての迅速な対応と問題解決で多職種の連携を充実させる。Nursing BUSINESS, 8（5）：436-439, 2014.



- 10) 佐藤圭右：重症心身障がい児（者）施設長の視点からみた診療看護師（NP）の成果. 看護研究, 48 (9) : 461-462, 2015.
- 11) 廣瀬福美, 小野美喜, 小寺隆：介護老人保健施設における診療看護師（NP）の活動成果. 看護研究, 48 (5) : 456-458, 2015.
- 12) 坂本すが：看護師の役割拡大と特定看護師（仮称）. 看護, 62 (9) : 47-49, 2010.

## Abstract

The degree of satisfaction of nurses and staff toward the activities of pediatric nurse practitioners (PNP) and their expectations of PNP

### 【Purpose】

To clarify the degree of satisfaction of nurses and staff toward the activities of PNP and their expectations of PNP.

### 【Methods】

This survey was conducted from August to September 2015 on nurses and staff members such as childcare workers and care workers at facilities for severely intellectually and physically disabled children (people). There were 24 questionnaire items, including items related to respondents' attributes and the degree of satisfaction toward the activities of PNP, and responses were given on a five-point scale. The responses were analyzed using descriptive statistics and the Mann-Whitney U test, with a significance level of 5%.

### 【Results】

Questionnaire forms were distributed to 43 nurses and 26 staff members, and 30 and 13 responses were collected, respectively. All nurses showed high levels of satisfaction for the four items: "It is easy to ask the PNP questions about judgements or treatments, etc.," "The PNP give a quick response in difficult situations," "The PNP have outstanding knowledge and skills," and "The PNP often give guidance to nurses and staff members." Staff members showed high levels of satisfaction for four items, including "I am satisfied with the care that PNP give patients," "I am satisfied with the attitude of PNP toward patients," and "I think there is cooperation between PNP and doctors."

### 【Conclusion】

This survey suggested that nurses and staff were satisfied with activities such as nursing and medical intervention performed by PNP, and trusted PNP as a consultant. They had expectations that PNP would "carry out specific medical practices."

**Key Words** : activities of pediatric nurse practitioner, nurses, staff, satisfaction, expectations